

2013年6月4日～12月1日

帝国データバンク史料館 テーマ展示

# Once Upon A Time In Far East



百年史編纂&シアター映像製作

現地取材 15年間の記録

TDBはアジア太平洋戦争が終結するまで、極東に延べ29の事業所を開設していた。

敗戦で在外資産の全てを失ってから半世紀以上が経った1997年9月、

記憶を呼び覚まし、記録を現地に訪ねる大仕事が始まった。

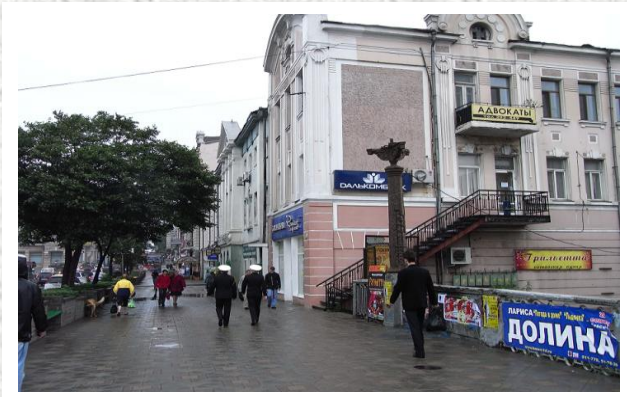
本展示は、1997年から2012年までの15年間に及ぶ

帝国データバンク海外支所踏査プロジェクトの「メイキング・ストーリー」である。

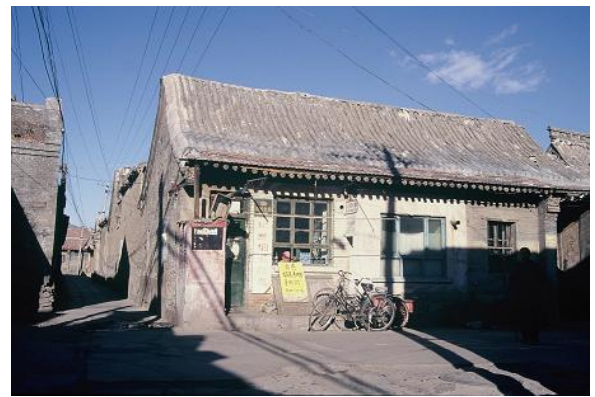


## 展示構成1 現地現認～海を超え、時を超えて～

帝国データバンク海外支所踏査PTは、15年間で35都市を延べ77回訪問した。それは、「時代の風」「時代の匂い」「時代の息吹」を“いまの視点”で写し取る旅でもあった。



ロシア・ウラジオストック、旧浦塩斯徳支所（右正面）（2009.7）



中国河北省、旧張家口支所（右）（1997.11）

## 展示構成2 異境辺境～足跡を辿り、歩幅を知る～

かつて極東の地にあった29の支所。そこでは起伏の激しい事業が営まれていた。時代の荒波は日本をさらに異境辺境に追いやり、調査員も頻繁に足を運んだ。彼らの足取りを辿ることは当時の日本の歩幅を知ることであった。



中国哈爾濱郊外平房（2006.12）



中国・ロシア国境の町、綏芬河（右、ロシア領）（1998.11）

## 展示構成3 残照残像～記憶を伝え、資料が語る～

各地の図書館、文書館では数多くの貴重な資料を発見した。



山西省档案馆(太原市)で情報交流(2006.12)

## 展示構成4 東奔西走～ロケ隊は今日も行く～

撮影は毎回現地のTV局や関係者の協力がなければ不可能ほど大掛かりなものだった。また歴史を切り取る撮影効果を最大にするためにいろいろな特殊機材を使用した。



上海・外灘地区(2006.12)



南京・建福里(2012.6)